

平成 29 年度第 2 回門真市社会教育委員会議 議事録

会議名称	平成 29 年度第 2 回門真市社会教育委員会議
開催日時	平成 30 年 3 月 29 日（木）午後 3 時 30 分から午後 4 時 50 分まで
開催場所	門真市立文化会館 音楽室
出席者 (予定)	(委員) 萩原議長・舩越副議長・中島委員・仲谷委員・鈴木委員 木下委員・白土委員・古川委員 (事務局) 満永教育部長、水野教育部次長、牧菌社会教育課長、西中図書館長、 竹本図書館長代理、清水社会教育課長補佐、中谷社会教育課長補佐、 宇治原副参事、岡係員
議 題 (内 容)	① 門真市社会教育関係団体の登録認定について ② 社会教育関係団体への補助金等の交付について ③ 諸報告
傍聴者数	1 人
担当部署	(担当課名) 教育部 社会教育課 (電 話) 06-6902-7139 (直通)

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、会議を開催したいと存じます。

開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

まず、会議の次第でございます。

次に、「配席図」でございます。

資料 1 「門真市社会教育関係団体登録 申請団体一覧（新規・更新）」

資料 2 「社会教育関係団体の登録に関する要綱」

参考 1 「門真市社会教育関係団体一覧表」

資料 3 「平成 30 年度補助金要求額一覧表」

資料 4 「アンケート集計結果」

参考 2 「アンケート用紙」

以上です。資料に不足はございませんか。

不足がございましたら、お知らせください。

本日の進行につきましてはお手元の次第のとおりでございます。

以降の進行を議長にお願いします。

**【萩原議長】**

みなさん改めましてこんにちは。萩原でございます。年度末の非常にお忙しい中、多数お集まりいただきありがとうございます。本日は、第2回の社会教育委員会議ということで案件3つ事務局から示されておりますけれども、これにつきまして、積極的なご意見を賜りますようお願い申し上げます。それでは、次第に従いまして案件のほうに入っていくと思います。案件1 門真市社会教育関係団体の登録認定について、事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

案件1 門真市社会教育関係団体の登録認定についてご説明いたします。

資料1「門真市社会教育関係団体登録 申請団体一覧（新規・更新）」をご覧ください。

この度、12 団体より門真市社会教育関係団体の登録申請がございました。つきましては、資料2「門真市社会教育関係団体の登録に関する要綱」の中の第4条、「登録の可否については社会教育委員会議に諮り、決定するものとする」という規定に基づきまして、社会教育委員の皆様にご審議いただきたいと存じます。

今回、申請のございました12 団体のうち、愛好会親睦バレーボールにつきましては、新規での申請となります。それ以外の11 団体につきましては平成30年3月31日をもって登録有効期限を迎えるため、登録を更新するか審議するものです。

上から順に申請のありました団体名を読み上げさせていただきますので、活動内容や目的等も併せてご確認ください。まず「門真市民ミュージカル」、次に「門真市青少年育成協議会連合会」、次に「門真小学校区青少年育成協議会」、次に「大和田校区青少年育成協議会」、次に「二島校区青少年育成協議会」、次に「上野口校区青少年育成協議会」、次に「速見校区青少年育成協議会」、次に「北巢本校区青少年育成協議会」、次に「五月田校区青少年育成協議会」、次に「東校区青少年育成協議会」、次に「門真みらい校区青少年育成協議会」、最後に「愛好会親睦バレーボール」でございます。なお、今回申請のあった全ての団体について、門真市社会教育関係団体の登録に関する要綱第2条に規定されている登録の要件を満たしていることを確認しております。

それではご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

**【萩原議長】**

ありがとうございました。ただ今、案件1 門真市社会教育関係団体の登録認定について、事務局より説明していただきましたが、これに関しましてご意見やご質問等ありましたらお願いしたいと思います。

**【白土委員】**

すいません。15 番の門真市青少年育成協議会連合会、これは門真市全体のことですね。その下からは小学校の名前がでておりますけれども、14 校の内の9 校が今回更新で、それ以外の校区、14

校全部こういった組織はあるのですか？

**【事務局】**

白土委員からのご質問は、15番から26番の中に小学校全校は入っていないが、それはどうなっていますかということによろしいでしょうか。

**【白土委員】**

はい。

**【事務局】**

今回の更新につきましては、9校が更新ということで他の校区からは申請をいただいております。

**【白土】**

更新ということではなくて、申請があがっていない。

**【事務局】**

補足させていただきますと、申請は他にもいただいておりますが、更新については今ご報告させていただきました9校ということでございます。参考1の資料に現在登録のある団体すべて記載しておりますので、参考としてご確認いただければと思います。登録有効期限も記載しています。

**【萩原議長】**

1番から28番まで登録団体があって、15番が門真市青少年育成協議会連合会で、16番から28番までが校区の青少年育成協議会ということと、平成30年3月31日に登録有効期限を迎えるところと平成31年3月31日に登録有効期限を迎えるところがあるので、今回はこの平成30年に登録有効期限を迎える校区が申請されているということです。

**【白土委員】**

ありがとうございます。

**【萩原議長】**

他にいかがでしょうか。

**【古川委員】**

門真市民ミュージカルなんですけど、登録することについて全く異議はないですが、ホームページの更新がしばらくないように思うんですけれども、もう少し積極的に広報活動をやっていただい

て、どのような活動をされているのか全く見えないので、そのあたりはどうなっているのかと思ひまして。それは門真市民ミュージカルさんに一任なのか、もう少しこちらから何か提案した方がいいのか。今、ホームページなどのメディア系統を使うのは非常に大事だと思うので、そのあたりのところ少しお聞きしたいと思ひまして。

**【萩原議長】**

活動状況について事務局で把握されていますか。

**【事務局】**

活動状況はこの更新時期に活動計画等をご提出いただくので、そこでの確認のみとなっております。それ以外にこちらから働きかけなどは行っていません。

**【古川委員】**

市民ミュージカルは門真の目玉的な存在なのではないかと思うので、できればそのあたりもう少し積極的にやっていただきたいという意見を届けていただければと思ひます。

**【萩原議長】**

今回登録申請がでておりますので、こちらから申請が受理されましたという返事は当然することになりますよね。

**【事務局】**

はい。

**【萩原議長】**

そのときに、ホームページの更新が滞っているようなので、できるだけ活動を知らせるために積極的に更新してくださいということを、付帯意見として申し伝えていただければと思ひます。

ほかにございますか。

**【鈴木委員】**

このタイミングで出ていない学校については、今日承認されなければもう登録はできないということですか。

**【事務局】**

年2回社会教育委員会議を開催しており、2回目の3月会議に合わせて、申請の手続きをお願いしておりますので、このタイミングを逃すとしばらくはお待ちいただくこととなります。

【鈴木委員】

というのも脇田小学校が出ていないので。

【事務局】

脇田小学校は今回更新の時期で、通知も送付させていただきましたが、申請がありませんでした。

【萩原議長】

この段階では登録団体から外れて、次はまたこの会議があるときに間に合うように出していただければ、新規の団体として登録していただくということで。

登録のある、なしによって具体的なメリットは、例えば公民館使ったりとかそういう時ですよ。

【事務局】

主に施設利用料の減額です。3割の減免になりますので、そういったメリットが一番大きいと思います。

【鈴木委員】

補助金にも関係するのですか。

【事務局】

補助金には関係ありません。

【鈴木委員】

分かりました。

【船越委員】

確認不足ですいません。さきほど14校区あるとおっしゃいましたか。

【仲谷委員】

小学校は14校区です。

【船越委員】

ここで数えますと、12校区ですか。16番の門真小学校区は連合体の組織ですか。

【萩原議長】

門真小学校という固有名詞になると思います。

**【船越委員】**

となりますと、13校になりますか。

**【仲谷委員】**

はい。沖小学校がこれに登録されてないと思います。

**【船越委員】**

これはもともとそういった組織がないのでしょうか。それともあるけれども申請をされていないのか。

**【仲谷委員】**

青少年育成協議会という組織はあったと思います。

**【事務局】**

各小学校区単位でありますので、申請はされてないですが、活動自体はされています。

**【船越委員】**

過去にも申請はされていない。

**【事務局】**

過去にもなかったかと思います。

**【船越委員】**

そういったところもあるんですね。

**【萩原議長】**

そのあたり、青少年育成協議会連合会には所属しているので、連合会の構成組織である各校区の協議会についても、施設の減免については一括で認めるとした措置は難しいのでしょうか。沖小学校がどのようにされているのか分かりませんが、各小学校校区の協議会が毎回このように申請書を出すのが、手続き的に煩雑で、組織活動そのものにとって非常にしんどいといった状況があるのであれば、連合会が入っていれば、その下部組織が施設を使うときは同じように扱うということができるのであれば、社会教育関係団体の数が減ってしまうということはあると思いますが。

例えばPTA協議会は市全体のものですよね。単位PTAは当然各学校にあると思いますけども、その単位PTAの方がPTA協議会に所属していて、施設を使いたいと言っても減免にはならないということですね。

【事務局】

はい。

【萩原議長】

P T Aの会合で公民館等を使うことはあまりないとは思いますが、実際には学校を使われるでしょうから。

【事務局】

単位P T Aについては、学校を活用されることが多いです。ただ、公民館とか文化会館を使われることもありえると思います。P T A協議会については、施設を使用していることもあります。

【萩原議長】

そのために入っておられるということでしょうね。逆に青少年育成協議会は学校を使わずに施設を使っておられるのでしょうか。

【事務局】

一概にそういったことでもありません。

【萩原議長】

もし、協議会ごとに申請するのが手続き上煩雑で、むしろ活動にとってプラスになっていないのであれば、協議会が入っていれば下部組織も同じように減免対象にするというのを、条例に謳うのは難しいかもしれませんが、この中で合意できるのであれば、来年度以降そういった形で協議会の構成員として、単位協議会の構成員の一覧をつけるなどの対応でいけるのであればそうしても良いかもしれませんね。

今回、出されているところと出されていないところがあって、出されているところは努力して出されているので、これは認める必要があると思います。次回以降は、連合会が入っていて下部組織の一覧がもらえるようであれば、校区ごとの申請は不要であるといった形で取り扱っても良いかもしれませんね。

【事務局】

減免の取り扱いについては、また検討いたします。

【萩原議長】

はい。検討の余地があればお願いします。

【仲谷委員】

すいません。補助金交付のところを見ると、各小学校区青少年育成協議会に2万5千円ずつということで、登録していなくても、登録していてもこの補助金はいただけるんですね。登録するメリットとしては、公民館などを使うときに減免があるということくらいですかね。

**【事務局】**

そうですね。また、連絡先等も把握することになるので、社会教育についての情報提供などもあります。

**【萩原議長】**

社会教育課から連絡があると。

**【事務局】**

はい。

**【木下委員】**

そういう意味では、やはり連合に入っていればということではなくて、社会教育とのつながりというところでいくと、お手間だとは思いますが校区ごとの方が望ましいのかなと感じたところがございます。

**【萩原議長】**

たしかに情報提供はすごく大事なことだと思います。

**【木下委員】**

間接的になってしまいますよね。連合会にまとめてということでしたら、そこからまた下ろしていくということになってしまいますので、長い目で見ると直接つながった方がいいのではと思わせて。

**【萩原議長】**

分かりました。先ほどのわたしの意見は取り下げで。それぞれに申請していただくと。できるだけすべての校区に入ってもらおうよう、引き続き事務局から今回出されなかったところも、まだ一度も申請がないところも是非出してくださいと。メリットも強調して言っていただければいいかなと思います。

とくにほかにご意見がないようでしたら、この申請については認めるということによろしいでしょうか。では、今回申請のあった団体について、申請を認めて社会教育関係団体として認定します。

**【萩原議長】**

次に、案件2 社会教育関係団体への補助金等の交付について、事務局から説明をお願いします。



## 【事務局】

それでは、案件2についてご説明いたします。

資料3「平成30年度 社会教育関係団体補助金等一覧」をご覧ください。

こちらにつきましては、社会教育法第13条に「社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、教育委員会が社会教育委員会議の意見を聴いて行わなければならない」と定められておりますことから、交付予定の団体、補助対象となる事業・金額等を読み上げましてご報告とさせていただきます。上から順に読み上げます。

はじめに、門真市PTA協議会の「研究発表大会事業」・「生活指導委員会講演会事業」・「文化交流委員会講演会事業」に対し、門真市PTA協議会補助金として、20万円予算計上しております。

門真市青少年育成協議会連合会の「青少年の健全育成を目的に実施する青少年非行防止市民決起大会事業」・「青少年の健全育成に寄与することを目的とする事業」に対し、門真市青少年育成協議会連合会補助金として、10万円予算計上しております。

各小学校区（14校区）青少年育成協議会の「青少年の健全育成を目的に実施する校区パトロール活動に関する事業」・「青少年の健全育成を目的に実施する校区清掃活動に関する事業」・「青少年の健全育成にかかる研修及び啓発活動に関する事業」・「その他青少年の健全育成に関する事業」に対し、各小学校区青少年育成協議会補助金として、1小学校区あたり2万5千円、14校区計35万円予算計上しております。

門真市子ども会育成連合会の「各種スポーツ大会事業」・「ジュニアリーダー養成事業」・「子ども会フェスティバル事業」・「研修会事業」・「大阪府子ども会育成連合会及び北河内ブロック子ども会育成連合会に対する負担金」に対し、門真市子ども会育成連合会補助金として、35万円予算計上しております。

門真市スポーツ少年団の「門真市スポーツ少年大会事業」に対し、門真市スポーツ少年大会補助金として、10万円予算計上しております。

同じく門真市スポーツ少年団の「講習会事業」に対し、門真市スポーツ少年団本部補助金として5万円予算計上しております。

門真市体育協会の「研修会事業」に対し、門真市体育協会補助金として、15万円予算計上しております。

門真市校区体育祭実行委員会の「門真市校区体育祭事業」に対し、門真市校区体育祭補助金として14校区合計で215万円予算計上しております。

最後に、門真市文化協会の「文展事業」に対し、門真市文化協会補助金として、15万円予算計上しております。

以上でございます。

## 【萩原議長】

ありがとうございました。それでは、案件2 社会教育関係団体への補助金等の交付について、ご

質問やご意見はございますか。

**【木下委員】**

30年度予算が合計で360万円ということですが、近年と比較して、内訳に何か変化があれば教えてください。

**【事務局】**

一部変更があるのが、門真市子ども会育成連合会についてです。次年度予算が35万円となっておりますが、前年度は40万円予算計上しておりました。しかし、前年度は補助金をすべて使いきれなかったということで、今回、団体の方からこの金額でいけるとお聞きしたので、35万円で予算要求しております。

**【萩原議長】**

あとの部分は変更なしということによろしいですか。

**【事務局】**

はい。

**【木下委員】**

ありがとうございました。

**【白土委員】**

門真市の市子連の実態というか、私は北巢本ですけどほとんどの活動がなくなって。今何をやっているかという、ゴミの収集といますかりサイクルのことに子ども達関わっています。30年、40年前はクリスマス会や夏にも行事があって、どこも年から年中色々な取り組みをしていて、子どもも活発に活動していました。その分保護者も大変だったんですけども、非常に地域が活発だった。やはり子どもの数が減少したというのがありますけど、今の市内の実態としてはどんなものなんですかね。たくさん子ども会があると思いますけど、実態として市で把握している組織は、どのくらいなのか。1つの学校でも、ここはやっていて、ここはやっていないというのがあって、物理的に無理なこともありますし、関わるのが非常にしんどいということになりますと、将来的に本当に寂しいことです。今の推移としてどのようになっているのか教えてほしいです。

**【事務局】**

子ども会の実態について、具体的な数字を申し上げることはできないんですけども、市子連の組織を脱退する子ども会もあれば、単独で活動はしているけれども市子連には加入していないというところもあります。細かいところになりますと、市の方でも具体的にどういった活動をされてい

るのかは把握しておりません。詳しい話を的確にお伝えできず申し訳ありませんが、若干なりとも少なくなってきたということは申し上げることができると思います。

**【白土委員】**

地域の校区体育祭なども組織化できないというところがあります。そうすると、だんだん縮小されてしまう。せっかく立派な体育館ができたことですし、ちょっと考えて、元気づくことができればと思います。

**【萩原議長】**

ありがとうございます。5万円使いきれなかったということも活動が沈滞化しているということのあらわれかもしれないですけれども。社会教育関係団体として補助金を交付しているので、社会教育課からまた、活動についても実態どうですかと補助金の連絡をされる時に聞いていただくだけでも、活動が進むかもしれないのでよろしくをお願いします。

他いかがでしょうか。とくにご意見ないようでしたら、この交付について、社会教育委員会議では認めたということにしたいと思います。

**【萩原議長】**

次に案件3諸報告について事務局よりお願いいたします。

**【事務局】**

前回の第1回社会教育委員会議において、各事業に携わっておられるボランティアの方々が、活動にあたりどのような課題をもっているのか、またどのような支援を必要としているのかをボランティアの方々に社会教育委員会議にお越しいただき、直接お聞きしたいというご意見をいただいております。

しかしながら、少数の私的な意見を伺うよりも多様な意見を収集した方が良いと考え、萩原議長と協議のうえ、アンケート調査によってボランティアの意見を拾い、会議の場でご報告させていただく形になりました。委員のみなさまには事前にお伝えさせていただいておりますが、改めてご理解とご了承いただきますようお願い申し上げます。

併せて委員の皆様におかれましては、アンケート結果を踏まえ、社会教育行政として、どのような支援や取り組みが必要かご意見・ご助言をいただきたく存じますのでよろしくお願いいたします。

それでは資料4をご覧ください。

今回のアンケート調査の概要について簡単にご説明します。

まず、アンケートの内容についてですが、参考資料2のとおりでございます。委員のみなさまから事前にいただいたご意見を質問項目に反映させていただいております。

次に、対象者についてですが、前回の会議で主に話題に挙がっておりました事業に、携わってお

られるボランティアの方々を対象にしました。

一つ目が、「学校支援地域本部事業（学校支援関係者）」

二つ目が、「かどま土曜自学自習室サタスタ事業」及び「まなび舎 Kids 事業」

三つ目が、「読み聞かせ事業」及び「読書活動推進事業」（図書館関係者）です。

最後にアンケートの回収率についてです。

学校支援地域本部事業について、対象人数 23 人、回答数 12 件、回収率は 52%です。

かどま土曜自学自習室サタスタ・まなび舎 Kids について、対象人数 185 人、回答数 103 件、回収率は 56%です。

読み聞かせ・読書活動について、対象人数 39 人、回答数 18 件、回収率 46%です。

全体としては、対象人数 247 人、回答数 133 件、回収率 54%となっております。

それではアンケート結果についてご報告いたします。お手元の資料には事業全体の集計結果に加え、事業別の集計結果も記載しておりますが、会議の時間も限られておりますので、事業全体の数値のみのご報告とさせていただきます。また、その他の意見や各質問項目に対する回答理由についても省略させていただきますことご了承ください。

1 ページ目をご覧ください。

「質問① ご協力いただいている事業」、「質問② 年代」、「質問③ 性別」など対象者の属性をまとめたものです。「質問① ご協力いただいている事業」については複数回答可となっております。

まず事業別の回答件数は、「サタスタ・まなび舎」が 103 件と最も多く、次いで「読み書きかせ・読書活動」が 18 件、「学校支援地域本部」が 12 件の順となっております。続いて男女別の回答件数は、「女性」が 106 件、「男性」が 27 件の順となっております。最後に年代別の回答件数は、「50 代～60 代」が 41 件と最も多く、次いで「70 代以上」が 37 件、「10 代～20 代」が 28 件、「30 代～40 代」が 27 件となっております。

次に 2 ページ目をご覧ください。

「質問④ 活動歴」について

「1 年（1 年未満含む）」が 30 件と最も多く、次いで「2 年～3 年」が 24 件、「4 年～5 年」、「8 年～9 年」が 23 件、「6 年～7 年」、「10 年以上」が 15 件の順となっております。

続いて 4 ページ目をご覧ください。

「質問⑤ 現在の活動（ボランティア）に携わるようになったきっかけは何ですか？（複数回答可）」について

「知人や友人に誘われて」が 57 件と最も多く、次いで「その他」が 34 件、「市のホームページを見て」が 29 件、「学校の行事として」が 12 件、「自治会の回覧板を見て」が 3 件、「その他ホームページ・情報誌を見て」が 2 件の順となっております。事業別件数、その他の回答については 5 ページ

から6ページに記載しております。

続いて7ページ目をご覧ください。

「質問⑥ 行政からどういった支援が必要であると感じていますか？（複数回答可）」について「人材確保」が50件と最も多く、次いで「情報提供」が47件、「研修会等の実施」が34件、「財源」が31件、「物品提供」が25件、「その他」が10件の順となっております。事業別件数、回答理由については8ページから10ページに記載しております。

続いて11ページ目をご覧ください。

「質問⑦ 活動にあたり課題に感じていることは何ですか？（複数回答可）」について「児童・生徒との接し方」が48件と最も多く、次いで「人材不足」が46件、「学校との連携」が40件、「行政との連携」が22件、「保護者との関係」が13件、「その他」が9件、「地域とのつながり」7件の順となっております。事業別件数、回答理由については12ページから15ページに記載しております。

続いて、16ページ目をご覧ください。

「質問⑧ ボランティアを続けていく上で個人的な悩みはありますか？」について「ある」が28件、「ない」が88件となっております。また、「ある」と答えた方の具体的な事例を同ページに記載しております。

続いて、17ページをご覧ください。

「質問⑨ ボランティア活動中に気分を害したことや憤りを感じたことがありますか？」について「ある」が32件、「ない」が84件となっております。また、「ある」と答えた方の具体的な事例を17ページから18ページに記載しております。

続いて、19ページ目をご覧ください。

「質問⑩ ボランティア活動をしていて、やりがいを感じたことはありますか？」について「ある」が100件、「ない」が14件となっております。また、「ある」と答えた方の具体的な事例を19ページから21ページに記載しております。

最後に、22ページ目をご覧ください。

「質問⑪ 今後もボランティア活動を続けていきたいと思いませんか？」について「そう思う」が61件と最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が46件、「どちらかといえばそう思わない」が8件、「そう思わない」が2件の順となっております。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答理由を22ページから23ページに、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の回答理由を24ページに記載しております。

最後にアンケート全体をとおしての傾向や総論ですが、

サタスタ・まなび舎の回答者件数が多いので、全体の数値はサタスタ・まなび舎に引っ張られるような形になっておりますが、ボランティアのみなさんが抱えている課題や悩み、やりがいなどは共通した意見が多数挙がっております。

一方で、各事業によって、ボランティアが抱えている課題や行政の支援が必要な部分が少しずつ違うということもアンケート結果より把握することができました。例えば、課題の面では学校支援地域本部やサタスタ・まなび舎では「人材不足」が一番の課題であるのに対し、読み聞かせ・読書活動においては、「行政との連携」が一番の課題であること。支援が必要な部分に対しては、学校支援では「研修会の実施」が一番であるのに対し、サタスタ・まなび舎では「人材確保」や「情報提供」読み聞かせ・読書活動では「財源」などであることです。

しかしながら、課題等を抱えていながらもやりがいを感じている方が多く、今後も活動を継続していきたいという方が大半であるという結果を見ると、ボランティアのみなさんにとっても各事業での活動が「生きがいくくり」や「自己実現」、「地域貢献」の場になっていることが分かりました。

今後はこのアンケート結果を踏まえ、課題解決に向け、事業内容の改善等に努めて参りたいと思います。

簡単ではございますが、アンケート結果の報告については以上でございます。

#### 【萩原議長】

ありがとうございました。この結果は事前にメールで送付いただいておりますので、みなさんも目を通していただいていると思います。ただいま、事務局より説明がありました部分につきまして、あるいは質問がないけれども気づいた点ということでも結構ですので、アンケート結果を踏まえてご意見やご質問があればお願いいたします。

#### 【木下委員】

社会教育委員会議といたしましては、関わっておられる方に来ていただいて、ヒアリングすることをご提案させていただいたんですが、結果的にはアンケートをしていただいたことで、しかも対象別の数値をしっかりと示していただきまして、さらに、自由記述につきましても、どの属性の方がお答えになったのかということもまとめていただいておりますので、大変私自身として、社会教育委員会議として、あるいは市にとっても参考となる資料になったと思います。それと自由記述欄をアンケートの質問6、質問7に設けてくださいと事前に意見させていただいたんですが、自由記述の多さにびっくりしました。この自由記述を読み込むだけでもいろんな考えを読み取れますので、自由記述をたくさん書いていただいていることが、アンケートに答えてくださっている方がそれだけ思いを持って、活動に関わっておられるということですので、「今後ボランティア活動を続けたいと思いますか」に対して「そう思う」、「そう思わない」が大半ということにもつながっていると思いますし、今後この結果をそれぞれ活かしていただくことが、活動なさっている方へのお礼

といたしますか、そういったことも感じたところでございます。

**【木下委員】**

こういったアンケートは初めてですか。

**【事務局】**

そうですね。

**【木下委員】**

是非フィードバックといたしますか、こういう意見が多かったからこういった所を改善したという形にさせていただきたいと思います。

**【萩原議長】**

いかがでしょうか。どの部分でも結構です。ご意見やご質問があれば。

**【古川委員】**

やりがいを感じているが大変多くて、ボランティアをしている人が元気になっているという側面があるのかなと思うんですけれども。気分を害したことや憤りを感じたことがありますかというところで、子どもとの接し方というのが大変多いと思うんです。どんなふうに接していか分からない、注意しても全く聞かないというのがあるんですけれども、一定の対策と言いますか、それがひとつと。もうひとつは、サタスタの中でこういうことが起こっていると思うんですけれども、学校の先生方、日々の授業の中でこれのもっときついものが起こっていると思うんです。その対応策についても、何か発展的なことがあればいいかなと思うんですけれども。例えば暴言を吐かれたとか、ひどい態度をとられたとか。これは小学校や中学校では頻繁にあって、学校の先生方を疲弊させているということもあるかと思えます。ましてやボランティアさんがこういうことに接した時に、どうすればいいのか分からないというのは、本当に本音なんだろうなと思うんです。そのあたり、学校以外のところでも起こっているということを、学校の先生とボランティアさんが一緒に考える機会があればいいかなと思います。学校ではこんなことがあって、学校以外でもこんなことが起こっているといったように、ボランティアさんを通じて学校の先生の大変さも少し分かってもらえるのではないかと思います。

**【萩原議長】**

ありがとうございます。すごく大事なポイントをいただいておりますか、ひとまず他の意見もいただければと思います。

**【白土委員】**

ボランティアで言いますと、私はふたつほど関わっているんです。今、おっしゃった子どもとの対応、はじめは非常に厳しい言葉がとんできます。私、キッズサポーターとして11年目になりますけれども、はじめて立った時は「おっちゃんなんや」「その恰好なんや」、それか無視して通り過ぎていく子。2年目から3年目になりますと少し目が合う。5年から10年たちますと向こうからじっと見てくる。もう少しくと頭が下がっているような、「おはよう」という口元が見えてくる。なので、おっしゃっているように自分が楽しく関わっているんです。これは誰にでもあてはまるわけではないですが、やはり長く関わる、継続的に関わるというのが大半だと思います。それとキッズサポーターをしていて時間があるときは、学校まで行って校長先生と少しお話しして、また活動に戻るんですけども。おっしゃっているように、学校と関わっておられる方の接点というのは非常に大事なことなんだと思います。各小学校ではキッズサポーターのメンバーを招待していただいて食事会をしたり、いろんな取り組みを見たりしているということも、少し聞いたことがあります。初めは口を閉じていた子どもたちが、だんだんと口を開いてくる。こちらはそれに応じて、言葉を返すといった日常があれば、そういった話を学校と共有することで、子どもたちの見方が変わってくるのかとも思います。また、たしかに暴言は大変ですけども、それを暴言ととるか、暴言ととらないかは、日頃の付き合いで変わってくると思います。

#### 【鈴木委員】

脇田小学校なんですけれども、土曜日のサタスタは地域の方が頑張っていてやっていただけてまして、そもそもの課題がここに書かれているような課題があって、そのとおりだと感じているところなんですけれども。この間、水曜のまなび舎を脇田小学校ではまだやっていないので、それに取り組んでいきたいと思いますということでお話したことがあるんですけど。結果的に言いますと、そのお話は頓挫したんですね。そのポイントは何だったのかと言いますと、ここにも書かれていましたけれども、この事業の性格上、選別ができないといいますか、学校としては課題がある子を選んで、その子に勉強してもらうために、その時間はまなび舎に行って勉強をしてくださいという仕組みをとりたいたいですけれども。やはりどうしてもフルオープンで来る者を拒まずにやらなくてはいけないというところがうまく合わなくてですね。オープンにする意図も分かりますが、そうなる勉強しない子も集まってくるので、学習環境が保たれないことがあるかなと思ひまして。そこがうまく合わずにストップになってしまっています。サタスタも勉強しに来ている子どもよりも、どちらかという居場所を探しに来ている子どもの方が多くて、それで暴れまわったりするので管理員さんがすごく苦労されていたり、子どもへどういう言葉かけてしてあげたらいいか分からないという課題があるなと感じていまして。事業の趣旨はすごくいいものなんですけれども、やり方を変える時期に来ているのかと感じています。

#### 【萩原議長】

いくつかご意見をいただいたのでひとつずつ事務局に。アンケートをとった結果をボランティアの方にどのように返すかということですね。そのあたりは何か考えておられますか。例えば、これ



と同じものを渡すかは別として、集計結果をどういう形で返していくか。

**【事務局】**

今のところは具体的に考えていません。みなさんのご意見をいただいて、何か返せるような形を考えていきたいと思っております。

**【萩原議長】**

この資料は会議資料としてでていきますので、これはオープンになったということによろしいですね。

**【事務局】**

はい。

**【萩原議長】**

そのような形で、アンケートにご協力いただいた全ての方に、今回回答されていない方も含めて、何らかの形で開示していただければと思います。やはり、最後の自由記述をご覧になることで勇気づけられる方もおられるでしょうし、あるいは、自分と少し違う意見をもたれている方でいろんな経験をされているなということ、理解が進むところもあると思いますので是非返していただいて。このボランティアの方は、やはり大切にしないと行政の現場で支援していただいている市民の方なので、この方を大切にしていくということは絶対大事なことだと思います。まず、意見をしっかりとこういう形で集計できましたというのを具体的に届けてほしいと思います。

2点目で古川委員からもご意見がありましたように、子どもとの接し方や教員との意見交換というのは私も良いと思っています。そういう学校とのふれあいと言いますか、公式の場では意見をなかなか言いにくいと思いますので。先生との間の、先ほどお食事会とおっしゃるように、日常的な交流の場があれば良いと思います。そこで子どもからの暴言と言いますか、やりとりも少しずつ改善できるでしょうし、そういう場を非公式でもいいので設けていけるように考えていただけたらと思います。すでにやられている事例があるということ、そこでどのようにされているか、先生方の負担にならないように、どういうふうにやるのが良いのかということを含めて考えていく必要があるなと思います。

それと、おっしゃっていたようにキッズサポーターですね。ずっと長いことやられていると子どもとの関係ができてくると思うんですけども、そこで、やはり教員との日常的な交流が活動を初めての方を支える大きな場になると思うので、困っているボランティアの方を孤立させないと言いますか、そういうことを日常的にはきだして、交流できる場というのはすごく大事になると思います。

それから、オープンにやられているところに勉強したい子どもと、そうでない子どもが混在しているというところで、ふたつできたらいいのかもしれませんが、なかなかそういう余裕がないとい

うことで、そのあたりどうやっていくのかですね。それについても具体的に考えていかなければならないと思います。来る子どもによって、ここに書かれているように、勉強しようという気はなくて居場所を求めに来ている子どもたちは、どうしてもあまり落ち着かずにやっているかもしれません。その辺の実態はどうですか。実際にご覧になられて。

#### 【事務局】

具体のところでは、元気な子どもたちは、初めから宿題をしない、プリントをしないというケースもあるんですけども、サタスタとまなび舎でも少し違って、当然まなび舎は学校が終わってからすぐ来ますから子どもたちの気持ちの部分ですね。例えば体育の授業が終わってからすぐ来ますと、気持ちが上がってしまってなかなか落ち着かないケース。逆に宿題を早くしないとというケースもまなび舎でよく見かけます。サタスタはやはり土曜日で、自ら一歩、家から出ないと参加できないということもあるので、しっかり勉強する子どもや実施場所が主に図書室ということがありますので、読書をしたり。ただ、やはり友達と遊びたいという子もいます。その部分では先ほど鈴木委員からいただいたご意見については、課題であると感じています。実態として上手くお伝えできているか分かりませんが、そのような形となっております。

#### 【木下委員】

図書館協議会のメンバーの立場で、門真市の図書館は併任なんですけれども、全部の小・中学校に学校司書の配置が整ったということで、サタスタの場所が図書室ということなので学校司書が携わることによって、本を読むということだけではなくて、教員と学校司書との連携、あるいは社会教育課との連携で、今後はさらにいろいろ期待できる場所があるのではないかと考えているところでございます。やはり専任の司書がいるかどうかでずいぶん変わると思いますので、是非そのようにお進めいただきたいと思います。

#### 【船越委員】

よろしいですか。

#### 【萩原議長】

はい。どうぞ。

#### 【船越委員】

ボランティアの方に今回アンケートをとっていただきましたけれども、ボランティアの方々に対する意識調査的なものは、これからも継続してやっていこうというお考えはおありですか。

#### 【事務局】

今回は、前回の会議の中でボランティアの方に来ていただいてという意見がございましたので、

このようなアンケート形式に変えさせていただきましたが、また必要がございましたら、内容をお聞きして、実施を検討したいと思っております。

#### 【船越委員】

今回調査していただいて、参考となる意見がたくさん聞けて良かったと思うんですけども、反面、少し気になるのが、約半数の人が回答されていないという実態なんです。調査をどのようにされたのかは詳しく伺ってみたいと分かりませんが、回答された方だけの意見を聞いて、すごくやりがいを持っている人が高いと判断すると、ひょっとしたら回答していない人が回答しないことで何らかの意思表示をしているということが考えられるわけでありまして。ですから、我々は調査を専門にやっておりますので、非常にそういうところは気をつけないといけない部分だと。表面に出てきた意見よりも意外と隠れている意見に本質があったりすることもあります。とくにこういったボランティアの方々を上手に確保していく必要が増えてくるということになると、意外とボーダーライン上にいる人たちの意見がすごく重要になってくると思われまして。細くモチベーションが高い方は、少々障害があったりとかトラブルがあったとしても、それでも頑張るってやるという意思を持たれている方は、とても戦力と言いますか頼りになるんですけども、でもそうじゃない方をいかに確保していくかということを考えますと、ボーダーライン上におられる方々の不満であるとか、あるいは生きがいであるとか、そういうところを見ていくことが、こういう方々の確保と言いますか、人材が足りないという意見が多いように思いますので、そういうところで考えていかなければならないところなのかなと思われました。

#### 【萩原議長】

おっしゃるとおりで、全体としては約半数なので、サイレントオピニオンということもありますけれども、全然答えていない人が、実はすごく不満を持っておられるということがありますので、そのあたりをどう上手くもっていくのかということはずごく重要になってくるかと思えます。

#### 【萩原議長】

いかがでしょうか。

今回はこのアンケート結果を見て、ご意見やご質問をいただいたんですけども、今後これを回答いただいた方を含めて、ボランティアの方々に返していただくことが大事なのかなと思えます。その時にこれらをもう少し我々も読んで、できることをやっていかないとと思えます。ひとつは、自由記述のところでもコミュニケーションを求めておられるような、私は全体としてはそんな感じがしたと思うので、やはり学校の教員の方とか、あるいは心理的な支え、知識を必要としている方もおられると思えますので、そのあたり研修と言いますか、支援をどうしていくのかというのが次の課題だなと思えます。そこで具体的にどういうことをやっていけばいいのかというのは、またご意見いただけたらなと思えます。

そんなまとめでよろしいでしょうか。ここはもう少しこうした方がいいということがあれば。

私は全体を見て事務局の方に返したときに、まず行政側からの支えというのが必ず必要になってくると思うので、そこを少し具体的に考えていく必要があるのかなということと、全体の傾向を説明いただいたんですけども、全体としては人数が多いのでサタスタとまなび舎が支配的なんですけど、参加者の傾向とかは、例えば、読み聞かせ、読書の方は全然違う傾向があるので、この辺もしっかり見ておく必要があると思います。それも含めてこの資料をしっかり読んで、何ができるのかということを考えていく必要が次の段階として出てくるということになります。とくに今日、これについてすぐにまとめるということはないんですけども、ここをこうした方がというのを次回までに継続して考えていただければと思います。

他に意見はございませんか。

#### 【古川委員】

副議長がおっしゃっていた、アンケートを回答していない人が50パーセントということはどう理解するのかということ、全くそのとおりだと思います。鈴木委員がおっしゃっていたように、今何かやり方を考える時期なんじゃないかということ。やはり学校とボランティアさんが両輪で回った方が絶対に効率的だなと思います。今、議長がおっしゃったコミュニケーションを求めているんじゃないかというところがあって、これって改めて思ったんですけども、やはり顔が見えない人の意見ではなくて、対話することがすごく大事なんじゃないかと思います。箱や時間などいろいろな問題があると思います。でもそれをとらないことには、顔が見えない人の意見を直接聞いていて、その中でみんなで生み出していくという作業を是非やっていただきたいなと思いました。

#### 【萩原議長】

書面だけでということではなくて、その場に入って直接意見を聞きとっていただきたいなと。困っている方の意見を聞くということが必要になってくると思います。

#### 【萩原議長】

先ほどおっしゃっていた学校との日常的な交流はやられていますか。

#### 【仲谷委員】

本校はリーダーの方が評議員なので、連絡をとったりすることはあるので、そのときにお話したりしていますけども、土曜日なのでなかなかお会いすることはないです。必要なことはメモでくださるので、こちらで対応をして、必要があればお電話差し上げるとことはしております。今このアンケートを見せていただいて、学校との連携のところはチェックして私も気をつけないといけないなと思っています。

#### 【萩原議長】

サタスタとかまなび舎の担当の先生は校長先生とか教頭先生になるのですか。

【仲谷委員】

そうですね。

【鈴木委員】

土曜日はなかなか難しいですね。

【萩原議長】

何か問題があれば校長先生のところに連絡がいくんですか。

【仲谷委員】

はい。そうです。

【木下委員】

学校司書がつなぎになれば。

【仲谷委員】

読み聞かせの方は何曜日にされているか分からないですけれども。

【木下委員】

読み聞かせは市民のボランティアの団体さんがされています。

【仲谷委員】

そうですね。司書さんも土曜日はお休みなのです。

【萩原議長】

サスタが図書館を使われていても、そこに司書の方は基本的には来られない。

【仲谷委員】

はい。いらっしゃらないです。

【木下委員】

そうですね。全校配置とは言いながらも、併任ですからね。土曜日は難しいですか。

【仲谷委員】

土曜日は勤務にあたっていないので、勤務のないときに来てくださいとは言えないです。

**【木下委員】**

そうですね。読み聞かせの年齢が図書館協議会でもいつも話題になるんですけども、高齢化しております、なかなか次の担い手がということなんですけれども、ここに例えば、サタスタに関わっておられる世代の方ですとか、大学で司書課程の学生とか、あるいは司書体験で高校生ですか。中学生ですか。読み聞かせをなさったとおっしゃっていたのは。

**【事務局】**

中学生が小学生にです。

**【木下委員】**

中学生、高校生が担うのは難しいでしょうけど、今後、樟蔭女子大学と連携されるとおっしゃっていませんでしたか。

**【事務局】**

そうですね。今度図書館の方で大阪樟蔭女子大学に。

**【木下委員】**

そういう方が次の担い手になれば、土曜日に学校司書がいなくても読み聞かせのメンバーが動ければ。学校との直接的な連携ということではないかもしれませんが、つなぎ手みたいな役割が担えれば、少しでもボランティアされている方のストレスも緩和されればという少し希望的な意見です。

**【萩原議長】**

もう少し教員の方で関わっていただける方がおられて、窓口の先生にちょっとお声かけいただけてだけでもボランティアの方も少し楽になると思うんですけども。

**【木下委員】**

先生方もお忙しいから。

**【仲谷委員】**

難しいですね。

**【鈴木委員】**

あるいは、17 ページに書かれていることで、ほとんど子どもから暴言をはかれたという意見なんですけれども、門真の子どもが全員こうではなくて、特徴のあるお子さんだと思うんです。なので、研修とかを望まれているということが、数字ででているので、例えば、こういうことを言う子ども

がいる時は、こういう対応すればいいみたいなことを導入研修でやっていただけると学校としても安心ですし、分かっている個人情報の問題で言えないこともあるので。一般的にはこういう対応でかわせるというか、子どもも理由があつてこういう態度になっているので、その理由が分かればボランティアさんも気持ちが楽に対応できると思いますけどね。

**【木下委員】**

行政に期待することで、研修の数字が高いですね。

**【萩原議長】**

なかなか時間をとるのが難しいかもしれませんが、ボランティア研修を考えてみても良いかもしれませんね。全体が集まるのは大変だと思うので、どこかできるところだけでも。あるいは、今は開発的生徒指導のようなマニュアルをかいつまんでボランティアの方にお渡しするようなことをして、こういう対応を部分的にしてもらったら、子どもの力を引き出していくようなこともできますよということで、マニュアル研修的な研修とか。あるいは、心理的なサポートなんかも、心理の方にお越しいただいて、今の子どもたちの状況はということでやっていただいたり。いくつかの内容はあると思いますが、研修はひとつの具体的なアクションとして必要かもしれません。

**【鈴木委員】**

研修の講師として、学校にも支援コーディネーターや専門の先生がいらっしゃいますので、その方々にやっていただくというイメージはあります。

**【萩原議長】**

そのあたり、具体的にやり方を検討いただければと思います。他にご意見はございますか。では、今日いただいた資料を読み込んでいただいて、こういうことが具体的に考えられるのではないかと、いうことがあれば、また次回にお願いいたします。

今日出てきたことをふたつ申し上げますと、ひとつは、このアンケート集計結果をなんらかの形でボランティアの方々に返していくということと、研修、日常的な研修も含めてボランティアの方々の支えや支援になるようなことを具体的に考えていくということをお願いしたいと思います。このようなまとめでよろしいでしょうか。

**【萩原議長】**

ありがとうございました。アンケート結果について、他にご意見やご質問がないようでしたら引き続き事務局より、もうひとつの報告をお願いいたします。

**【事務局】**

私より、門真市生涯学習複合施設建設基本計画についてご報告いたします。こちらのA4の概要

版をご覧ください。

現在、計画しております生涯学習複合施設は、図書館機能と文化会館機能を有する複合施設として、京阪古川橋駅北側の旧第一中学校跡地周辺に建設を計画しているものです。

この計画につきましては、平成24年9月に基本構想を、25年3月に基本計画を策定し、基本構想・基本計画の策定の際には、策定委員会に当時の社会教育委員にもご参画いただき、施設の中身についてご議論していただきました。今回、この計画につきまして、先日開催されました総合教育会議において、市長から市の財政の厳しい状況やまちづくりの状況の変化などから、施設の機能である、文化会館機能について既存の施設の活用などを含めて、一定の再検討をお願いしたいとの話がありました。総合教育会議での話を受け、教育委員会といたしまして、今後、検討を進めていくこととなります。また、再検討した内容につきましては、今後の社会教育委員会議においてもご報告させていただきます。

**【萩原議長】**

ありがとうございました。これにつきまして、何かご意見やご質問はありますか。  
今いただいているこの資料は、総合教育会議以前の考え方ですね。

**【事務局】**

はい。そうです。

**【萩原議長】**

文化会館機能については、ここに盛り込むかどうかの再検討ということですね。

**【事務局】**

はい。

**【萩原議長】**

図書館についてはそのままですか。

**【事務局】**

そのままです。

**【木下委員】**

跡地の活用がストップしたというわけではないということですね。

**【事務局】**

はい。



【萩原議長】

ここ、文化会館のことですよね。

【事務局】

ここです。開館から50年経つんですけれども、耐震もできていないということと、このエリアは防災機能を有する公園になる計画がございますので、いずれにしても閉館せざるを得ないということがあります。

【萩原議長】

既存の施設の活用ということは、例えばルミエールホールをというようなことですか。

【事務局】

そうですね。公民館とカルミエールホールも含めてというところになってきます。

【萩原議長】

ここには盛り込まず、そこを再活用することで文会館機能を維持するということですね。

【事務局】

そうですね。

【萩原議長】

施設を統合するのはすごく正しい方向だと思います。すべての施設を維持するのは到底無理ということになってきておりますので、その中であれもこれもではなくて、あれかこれかの選択は必要だと思います。ただ、この機能はどこかには必要だと思いますので、もしここに盛り込まないということになれば、そこをどう考えるのかしっかりとご議論いただきたいというふうに思います。

これにつきまして、何かご意見等ございますか。なければこれはまた別のところでご議論いただくということで、その時にご質問があればという形で進めたいと思います。では、以上で案件は全て終了しました。

【事務局】

様々なご意見やご助言をいただきありがとうございました。

本日いただいたご意見等を基に、今後の社会教育行政の充実に努めるとともに、上手く事業等に反映できた事例がございましたら随時ご報告させていただきます。

【萩原議長】

それではこれで平成29年度第2回門真市社会教育委員会議を閉会します。